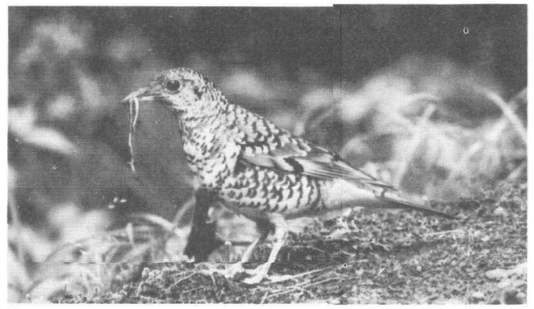
天覧山・多峯主山の四季

新緑の鳥たち



トラツグミ

5月に入ると新緑も一層濃くなり、夏鳥たちのさえずりが聞かれるようになりました。林床にシダなどが茂るやや暗い樹林からは「シシシシシ・・」と虫の声にも似たヤブサメが鳴き出し、明るい雑木の中からは「ピッコロ、ポッピリリ」とキビタキがさえずり始めています。谷の斜面からは「ドドド・・」と低くこもったヤマドリのほろ打ちも聞こえてきました。

谷戸の樹林に沿って細い道を進んでいくと、突然一羽のヤマドリがこちらに向かって飛び出しました。綺麗な長い尾を持った雄のヤマドリです。そしてそのすぐ後ろからもう一羽がこれを追うように飛び出してきました。ヤマドリは人間のいることなど気にする様子も無く、私の手が届きそうな目の前を通過して谷の奥へと入って行きました。繁殖に最適な環境を得るための雄どうしの縄張り争いなのでしょうか。

コナラやヤマザクラなど明るい落葉広葉樹の道を過ぎ、スダジイやアラカシなど林床の暗い照葉樹に入る林縁に何か動くものを見つけました。立ち止まり、双眼鏡で確認すると黄色と白と黒のまだら模様のトラツグミです。トラツグミは飯能周辺には一年中みられるトラツグミの仲間で、朝夕の薄暗い時間に「ヒューン、ヒューン」という声で鳴くために「鵺(ぬえ)」として妖怪扱いされていたこともあります。実際はおっとりとした性格で野鳥観察者にはとても人気のある鳥なのです。トラツグミはトコトコッと歩いては止まり、体を少し低くすると小刻みに震わせます。すると、不思議なことに落葉の間からミミズが顔を出してきました。トラツグミはこれを嘴で引っ張り出すと、ミミズを嘴に咥えながら次の場所へと向かい、同じ動作を繰り返していきます。トラツグミは嘴がミミズでいっぱいになると暗い茂みの中へと羽ばたいて行きました。トラツグミも子育ての時期を迎えています。

(財)日本生態系協会会員　市川和男

カエルのうたがきこえてくるよ

1月中旬、谷津田から奇妙な声が聞こえてくる。「キュロロ、キュロロ」アカガエルが鳴きだす。声を頼りに近付くと、ぴたっと鳴き止んでしまう。その場で身動きせずじっとしていると、また鳴きだすのだが、姿が見えない。数日後、そこには無数の卵塊が点在していた。このキュロロの声はやがて散発的になって聞かれなくなる。

3月も後半、今度はぐっと低い声がする。「ググッ、ググッ、ググッ」、バシャバシャと水音も混じって池は何やら騒がしい、ヒキガエルの産卵行動が始まったのだ。彼等に気付かれないように身をかがめ、忍び寄って行くと、周りの山のヒキガエルが一斉に池に来たのだろう、ざっと数えても50匹を越えた。池は波立ち、バシャバシャと水音をたてていたのは雄同士が合戦を始めたのだ。そう、これがカエル合戦、雄は誰それかまわず近くのカエルに抱きつく。そんな中、私の存在など気にもせず、ボールのように固まっている連中がいた。中心には雌がいるのだろう。雌にうまく抱きつけた奴の間に無理矢理入り込もうと何匹もが絡み合ってゴロゴロところがっていた。産卵のとき一つのコロニーに雌は数匹しかいないという、雌を奪いあっているのだ。数日後、池には一面に紐状の卵塊があった。

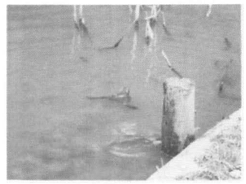
4月になると、「ケケケケ、ケロケロケロ」とシュレーゲルアオガエルの甲高い声が、水を張った田んぼの周辺から谷津中にこだまする。運がよければ、白い泡状の卵塊が見られるだろう。同じ頃、清流では「フィフィフィフィッフィー」と美しい声が谷間に響き渡る。カジカガエルが流れの中の石の上で、顎の下の鳴のうを目一杯膨らまして、雌に気にいられようと鳴き続ける。

やがて田植えも終わり、梅雨に入るころ「クエケッケッケ」とニホンアマガエルだ。このカエルは、繁殖期以外でも気圧の変化に反応し、低気圧が近付くと興奮して鳴く、雨になると鳴きだすのはこのためだ。

春先から夏にかけて谷津田の周辺では様々なカエルの歌が聞こえてくる。いつまでもこの環境を守って行きたいものだ。（会員　山梨光明）

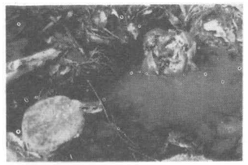
池には山じゅうの雄ヒキガエル（ガマガエル）が集まって、今や遅しとその時を待っていた。

そこに雌ガマ到来の報が流れる。「オイ、美ガマがきたらしいぞ」



「どこだ、どこだ～美ガマはどこだ～」

すでに合戦は始まっていた。7、8騎が団子状、かまわずわり込んで行く「何する俺のもんだぞ」「そうはいかぬ奪い取ってやるう」



一進一退の攻防に疲れ戦線離脱。「俺もう疲れた、一休みしよう」（こいつら少ししてまたトライしていった）

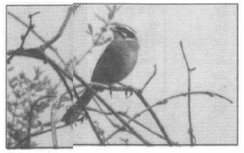
ようやく2匹っきりになって「あ～あ、とんだめにあったぜ、ったく」
翌日池にはひも状の卵塊が静かに沈んでいた。

天覧山・多峯主山の裏は今、どうなっているか。

ふる里散歩では、能仁寺に集合し、多峯主山まで登って降りてくるパターンが多く、あまりその北側を歩くことはありません。

ふる里散歩がコンサートでお休みの4月初旬、天覧山裏から北方向に獣道を降りてみたら、紆余曲折、最終的には西武鉄道車両基地のある北側登山口へ出ました。

登山口からすぐ右に造成地へ登る道があり、登ってみると細いヒノキが植えられた奥はまっさらで、ホオジロがさえずっていました。西武鉄道が、市民環境会議メンバーとの意見交換を受け、5月に社員による広葉樹（ハンノキやヤマハンノキ）の植樹を予定しているとのこと。



元に戻って、多峯主山へ向かうハイキング道を行くと、両側が植林地で、新しい植林地はヒノキと広葉樹が交互に植えられています。西武鉄道が所有者の意向を踏まえて、広葉樹にはクヌギ、コナラ、エノキ、ケヤキを植えているとのこと。右側は間伐をして整備された林になっています。

やがて東急高麗団地に突き当たり、そこから二股に分かれてどちらも多峯主山への登り道になります。団地に沿った道を登ると、団地と山並みが見渡せる高台に出て、早春の萌黄色と針葉樹のパッチワークがきれいです。

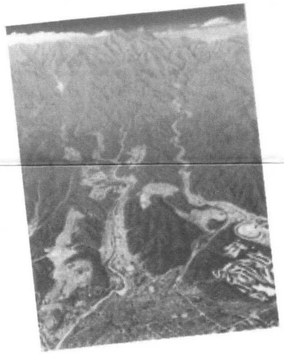
多峯主山頂はハイカーで賑わい、その足下をヒオドシチョウが飛び交い、ミヤマセセリがアラカシの新芽に産卵し、フデリンドウも顔を覗かせています。　（会員　大石 章）

「奥武蔵鳥瞰図」「てんた里山基金」にご協力ください。

パノラマ風景画家、友利宇景氏制作による「奥武蔵鳥瞰図」ができました。名栗湖を通って飯能市内を流れる名栗川と、巾着田に注ぐ高麗川の流れに挟まれて秩父へと続く山々が、飯能上空から一望するように描かれています。飯能の街のようすや、歩いた山の位置などをもう一度確かめてみませんか。

飯能市内の「めいわどう」（TEL042-972-2010)で販売しています。

郵送ご希望の方は10枚まで送料800円でお送りします。郵便振替での入金確認次第発送します。下記振り込み口座へ「鳥瞰図何枚希望」と明記の上ご送金ください。



てんた里山基金寄付として
1部1000円
（B２版／タテ728mm ×ヨコ515mm ）
＊寄付金はすべて当会の自然環境保全のための活動資金に充てられます。

「てんた里山基金」郵便振替口座
名　　称/NPO法人 天覧山・多峯主山の自然を守る会
口座番号/00580-9-16342

「てんた里山基金」とは？

てんたの会では天覧山北東側にある谷津田「東やつ」を買い取って、里山環境の保護活動を実践して行こうというナショナルトラスト運動を進めています。そのために「てんた里山基金」を設立しました。里山基金へのご寄付も受け付けております。お振込は上記へお願いいたします。